

繁殖期に活発な働き

東大が実験 生殖制御の神経細胞

東京大学の岡良隆教授と神田真司助教らは、生物の生殖を制御する神経細胞（ニューロン）が活発に働く様子メタカを使用した実験で確かめた。繁殖期には活発に働き、それ以外の時期は静かにな

繁殖に関わる「Kiss1ニューロン」と呼ぶ神経細胞がある。研究グループは、遺伝子を操作してこの神経細胞が光るメタカを開発した。

日照時間の変化に合わせて繁殖期を迎えるメタカの性質を利用し、人工的に生殖可能な状態にしたうえで脳を取り出した。Kiss1ニューロンが活動する様子を調べると、活発に活動していた。繁殖期ではないメタカだと、ほとんど働いていなかった。

Kiss1ニューロン

は卵巣や精巣が分泌するホルモンに応じて働きが高まり、たんぱく質の断片（ペプチド）を分泌する。ペプチドの働きによって、メタカは生殖行動をとり、人間は生殖器を発達させる。研究チーム

はまだ知られていない機能があるとみており、詳細に調べる考えだ。